

10月2日(日)



1パック(300g入り)

銀だらの 西京漬物

980税別円

西田鮮魚店 ☎72-5246
Joyful

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)
御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

いや〜、久々にコメント書かせて頂いています。
皆がコメント出来るまで最高ですね！毎回どう書こうか？お客様に伝わる？楽しめる？コメントかな〜って悩んでたんで(笑)もう安心！バトンを渡せばいいのだから!!鮮魚スタッフに感謝しかありません。
今月の広告は、新米に合う絶対旨いやつ〜をテーマに進めて行きます。
第一弾として銀だらの西京味噌を販売致します。
普通の銀だらだと一切れ100グラム辺り500〜600円。今回使用する銀だらは、加工の際に切れ端として出てくる端材などで、一切れも30g〜50g。だから通常価格の約半値で販売することが出来ます。味はもちろん変わりません！
ホロツと崩れやすい身と、魚の旨味と西京味噌の程よい甘さが、新米に良く合います！これ絶対旨いやつ〜になります。
今回300g入り税込価格980円！...さあ、食欲の秋しっかり食べていきましょ〜！
余談ですが、10月30日は三次青空マルシェ参加決定致しました！今回はサバパーガー新作を販売する予定です。お楽しみに〜!!こちらも絶対旨いやつ〜!!

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

『アイリータイム 9月27日午後6時半』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

「次の選挙には出んことにしました」。高正たかまさが言った。

9月27日午後6時半。ここは『アイリータイム』。

客は私たち二人だけ。恭子さんは「今日は貸し切りじゃけえ」と冗談めかして迎えてくれた。

珍しく高正からショートメールが入ったのは9月13日。「こんばんは。飲みませんか?」。一年に一回飲むかどうかという高正からの誘い。「呑みましよう」とすぐに返した。「いつ飲みますか?どこで飲みますか?アイリータイムにしますか?」「いいね」ということで、2週間後の27日に呑むことに決めた。

高正は三次高校の2級後輩。高校時代は面識なし。30才過ぎて、『千里十里』で、たまたま居合わせた高正と酔いに任せて、少々、小難しい話をしたのが最初の出会いだったような気がする。酔うと理窟こしずかっぽくなる私と、酔わなくても小難しい話をしたがる高正。妙に気が合って、一緒に呑む仲になった。

人を乗せるのがうまい高正は、私をして『掃除を学ぶ会』なるものに引つ張り込み、挙げ句、『庄原 掃除に学ぶ会』を立ち上げ、私を会長に祭り上げた。この種の会は苦手で、会長などという呼称は、さらにさらに苦手な私なのである。一年あまりで、頼みに頼んで止めさせてもらったが、今は三次高校の同窓会の『庄原 巴峽会』の会長を務めさせてくれている。

そんな高正が市議員の選挙に出ると言った。ネットで見ると、2005年の選挙に出ているから、17年前、50才の頃ということになる。男盛り。何事につけ一家言ある高正には、うってつけと思ひ応援した。といっても、出陣式に行っただけ。(選挙運動というものも苦手で、同級生の小林県議の選挙運動も遠慮させてもらっている。)

期待に違わず、というか、予想通りというか、ずけずけ物を言い、敵を作ることを厭いとわない高正の言動は、議会を波立たせたようだ。予定調和に陥りがちな地方議会には、こんな男が必要だ。

高正のスゴさは、勉強熱心で、いわゆる『進取の精神』に富んでいるところ。他の自治体を訪れ学ぶことはもちろんだが、一度ならず、二度、三度(たぶん)と、ドイツにまで飛び、帰国して、庄原の町の将来デザインを熱く語るのには感心させられた。

『地域政党きずな 庄原議員団』なる会派を設立。ジョイフルの前で街頭演説をする彼らに拍手を送ったこともある。

あれこれ30分も話していると、糸谷さんが入ってきた。頼母子たのもしの帰りらしい。2つ年上の糸さんは、私を認めるとすぐに、「馬刺しがうまいんじゃないか、刺しが入つとるもんより、赤身の方が好きなんじゃ。赤身を入れるように言うといてくれ」。馬刺しを売っていること自体を知らなかった私だが、すぐに祐宗店長に電話。が、出ない。やむなくメールしておいた。

すると、どやどやと4人のお客さま。やつぱり貸切じゃなかった。10人でいっぱいになる店は、いっぺんで満員に。大森さん・京子さん・谷川さん・タバタさん(田端さん?田畑さん?田島さん?)。糸さんもさっきまで一緒だったらしい。私も大森さん、糸さんとは別の頼母子で一緒。庄原は頼母子が盛んなのだとか。

高正との話は一時中断。

恭子さんの人柄だろう。『アイリータイム』はあつたかい。若いころ、オープンしたばかりのジョイフルで働いていた彼女は、きりつとした美人で、近寄りたいたい雰囲気、私には感じられたが、今は、気さくで、聞き上手、話し上手なママさんだ。

料理に心がある。その彼女が、先々週の日曜日に、ウチで売った『肉巻き寿司』を絶賛。『ミートファクトリーあんずお肉の工場直売所』の宮崎牛を使ったと、祐宗店長が言っていたものな。また、いつかやろう。

ワイワイガヤガヤ。ほとんど覚えていないが、とにかく盛り上がった。

大森さんは、(なんで、そんな話になったのだろう)東京オリンピックの年、県の代表で東京に行き、スウェーデンリレー(だったと思う)で一番だか二番だかになったんだとか。大森さん二十歳のころだろう。あの頃、小学生だった私は、市民運動会の地区対抗リレーで、毎回毎回、ぶつちぎりのスピードで、前を行く走者を抜き去る大森さんの姿が目には焼き付いている。かつこよかった。

京子さんは、まだ20代のころ、よく一緒に呑んでいた。『ルパン』『もみの木』『やすらぎ』懐かしい。最初、誰かわからなかった。話すうち、甦よみがえってきた。あの京子さんが、こんな豪快なおばさんになるとは。聞いて納得した。今は、さる木材会社の社長をしているのだとか。

谷川さんは、顔はわかるのだが……。失礼ながら酔いにまかせて聞いてみた。みんな、えっ、知らんのか、という目で私を見る。聞いて思ひだした。去年、『太閤』で名刺交換した、あの谷川さんだ。この手紙の文字が小さいと苦情をいただいた。

そして、タバタさん。こちらは、まちがいなく初対面。私と同じ年くらいかと思つて話していたが、80才と言われ、びっくり。見えん。なんでも奥さんが長岡商事に勤められていたとき、まだ若い私が、長岡の会長を、よく訪ねていたと話されたことがあるそうだ。いちばん尊敬していた人だったウチで売っている『社長の塩辛』がおいしいと大いに褒めてもらった。

ひとしきり話し、みんな帰られて静かになったとき、高正が切り出した。

これからは『漆(うるし)』を庄原の名産にすることをライフワークにしようかと思つていると。そうか、ほんとは、そんな話をしたかったんじゃないか。しかし、もう10時近い。「ウチで話そうや」と誘ったが、「いや、明日は議会があるから」。この年になると、酒を飲んだ翌日は、けだるい。明日に備えんと。分別のある言葉が返ってきた。

「今度は、酒の無い所で話そう」。そう言わせるほど、『漆(うるし)』を語る高正の眼は真剣だった。



紅梅通りのアイリータイム

2022年10月2日